

系統用蓄電池マルチユース事業への参画について

～長崎県長崎市に系統用蓄電池を設置、2023 年秋運転開始～

ソフトバンクグループの子会社で、自然エネルギー事業などを行う SB エナジー株式会社（エスビーエナジー、本社：東京都港区、代表取締役社長：三輪 茂基、以下「SB エナジー」）は、本日、長崎県長崎市で系統用蓄電池を設置し、九州地域で蓄電池マルチユース事業を行うことを決定しました。今回設置を決定した系統用蓄電池は、2023 年秋ごろの運転開始を予定しています。

SB エナジーが長崎県長崎市に設置する系統用蓄電池は、出力規模が約 2,000kW、蓄電容量が約 5,100kWh のリチウムイオン電池です。SB エナジーは今回、この蓄電システムと総合バーチャルパワープラント（VPP）プラットフォームサービス「ReEra」を用いて、電力供給量に余裕がある時間帯を中心に蓄電システムへ充電した電力を、需給状況と市場価格に応じ、日本卸電力取引所、容量市場および調整力市場から、適切な放電先を選択して供給する蓄電池マルチユース事業を行います。

2050 年のカーボンニュートラル実現に向けて、国は 2021 年 4 月に第 6 次エネルギー基本計画において 2030 年度温室効果ガス 46%削減（2013 年度比）の目標を掲げ、さらに 50%に向けて挑戦を続けることを表明しました。実現に向けた施策のひとつである再生可能エネルギーの主力電源への取り組みとして、蓄電システム等の多様な分散型エネルギーリソース[※]の導入拡大や、蓄電池の活用による脱炭素化された調整力確保などによる電力システムの柔軟性向上を目指しています。また、2022 年 5 月のクリーンエネルギー戦略中間整理では、エネルギー安全保障の確保に向けたエネルギー政策の方向性における再生可能エネルギーの大量導入に向けた施策として、デジタル化による系統運用の高度化および蓄電池・ディマンドレスポンス（DR）を含む分散型リソースのさらなる導入推進を示しています。

※ さまざまな規模の変動型再生可能エネルギーやコージェネレーション、燃料電池等の発電設備、大規模工場や水電解装置等の需要設備。

SB エナジーは今回の系統用蓄電池のマルチユース事業への参画により、蓄電池事業の経済性の向上に努め、蓄電池の普及拡大に寄与していきます。また、本事業の拡大による全国各地の電力供給安定化への寄与を通じて、自然エネルギーのさらなる普及を促進し、2030 年度温室効果ガス削減目標と 2050 年カーボンニュートラル実現への貢献を進めていきます。

■長崎県長崎市に設置する系統用蓄電池の概要

所在地	長崎県長崎市香焼町 1500-1
敷地面積	約 600 m ²
出力規模（蓄電池容量）	約 2,000kW（約 2.0MW）
蓄電容量（初年度）	約 5,100kWh
運転期間（予定）	20 年間（2023 年秋～2043 年秋）
種類	リチウムイオン電池
運転開始	2023 年秋予定